

# 提 案 の 概 要

施設名：名古屋市港図書館・南陽図書館

団体名：ホームエックス株式会社名古屋支店

## (1) 管理運営全般について

### ①施設の管理運営に対する基本方針等

#### ＜基本方針＞

- ・利用者目線に立った質の高いサービスを提供し、市民・利用者の「知的好奇心」と「居心地の良さ」を追求する“地域共創・地域密着型図書館”を実現する。
- ・港区の地域資源（海と港・自然環境・多文化共生・都市農業）を事業・サービスに反映し、区役所等の公的機関、地域団体、学校、企業、ボランティアと協働し、学びと交流の拠点づくりを進める。
- ・デジタル活用と館外サービスを強化し、返却ポスト網の拡充、移動図書館等を展開し、広域で多様な暮らしに対応した“スマートアクセス”的確立。

### ②管理運営体制

#### ＜組織・人員の配置・体制＞

区分	港図書館	南陽図書館
総括責任者		1名
副総括責任者	3名	2名
窓口責任者	2名	1名
スタッフ	24名程度	

- ・総括責任者を中心に、副総括責任者・窓口責任者には、実務に精通した人材を配置。
- ・両館を横断した応援・代替勤務ができる柔軟な勤務体制を整え、緊急時やイベント開催時等、利用状況に応じて適切に増員するなど業務の継続性とサービス品質を両立する。
- ・あわせて、支援機関と連携し、障害者雇用を推進。

#### ＜人材育成方針＞

- ・PDCA 手法を取り入れ、年間研修計画（会社独自研修+外部研修）を策定。
- ・管理施設他館との合同研修・情報交換等を実施し、連携と学びの相乗効果を高める。
- ・接遇やレファレンス、ハラスマント研修等に加え、図書館運営の基本理念を理解するスタートアップ研修や障害者雇用の受け入れ体制や職場の理解を深める障害者雇用対応基礎研修などを実施。

### <平等利用の確保>

- ・地方自治法第244条の趣旨を踏まえ、すべての人が等しく読書や情報にアクセスできるよう「誰一人取り残さない」図書館サービスを基本に、多様な市民（障害者・高齢・外国籍住民・LGBTQ等）が安心して利用できる環境を整備する。
- ・障害者・高齢者対応研修、認知症サポーター養成研修、人権研修を通じて、職員の理解と対応力を高め、差別のない接遇と合理的配慮を徹底。

### <緊急時の体制・対応方針>

- ・地域特有リスク（津波・高潮・浸水等）を前提に、日常から備えを徹底し、ハザードマップの確認・掲示、名古屋市防災アプリ／マイ・タイムラインの活用、定期的な防災・避難訓練と「緊急対応マニュアル」を整備。
- ・災害時には、名古屋市・消防本部・警察等関係機関との協力、連絡体制を構築し、被害の抑制と事態の収拾に努める。
- ・事故発生時には、現場への急行、迅速な救助、救急車の要請を行うなど、被害者の救護を最優先に対応する。
- ・災害、事故等に備え、AEDの使用法を含む一次救命処置や応急手当等研修を定期的に実施し、職員全員に技能習得を図る。

### <施設維持管理業務>

- ・開館前／閉館後／業務中の巡回を基本に、日常・定期点検で不具合、故障の兆候を早期発見し、必要に応じて補修・使用中止等で利用者の安全を確保する。定期・法定点検は原則休館日に実施し、利用機会への影響を最小化する。
- ・異常時は施設職員が一次対応し、本部（名古屋支店）と連携して協力企業へ要請、二次対応へ迅速に移行。夜間・休館日は保安警備により24時間365日監視し、緊急時は警備員・職員が参集。
- ・施設修繕は、緊急（突発）修繕に速やかに対応するとともに、中長期修繕計画に基づく予防保全に努め、施設の長寿命化につながる適正な修繕を計画的に執行する。
- ・環境配慮（省エネ、リサイクル、グリーン購入等）を徹底しつつ、物品の一括購入・在庫適正化、自社施工化、巡回による軽微段階での対応などで、品質を落とさず「ムリ・ムダ・ムラ」を削減。

### <関連法令の遵守体制>

- ・法令遵守とともに、公平・中立な運営、すべての利用者に開かれた図書館運営に努める。
- ・SDGs推進委員会・リスク管理委員会・内部監査委員会等の体制のもと、リスクアセスメントや危機管理訓練、年1回のコンプライアンス研修、内部通報・相談窓口の整備により、不正防止と早期是正を図る。
- ・プライバシーマークに基づく個人情報保護体制（責任者配置、誓約書、物理・技術対策、適切な保存・廃棄）を運用しつつ、情報公開条例の趣旨を踏まえ、請求対応に加えてSNS等での自発的な情報発信を実施する。

## (2) 実施業務の計画について

### ①図書館サービス

#### <館内サービス>

- ・ホスピタリティと専門性の高い窓口対応を徹底し、多言語対応やレファレンスサービスの充実・高度化に努める。
- ・iPad導入、Wi-Fi整備、分かりやすいサイン・バリアフリー整備、読書補助具等の常備によりアクセシビリティを高め、誰もが安心して過ごせる館内環境を整備。
- ・港区の地域特性をいかした企画展示、講座等を展開し、「学びの拠点」として、役割を果たす。
- ・館内美化の一環として、ブッククリーンを設置。
- ・カーテンロールを設置し、快適で居心地の良い空間を演出。（港図書館）
- ・開館日の拡大（第1・3月曜日を開館）、開館時間の延長（日曜日・祝日について19時まで開館）を実施。（港図書館）

#### <館外サービス>

- ・港区全域を「図書館圏」と捉え、地理的・身体的・時間的等の障壁で来館が難しい方や未利用者に対して図書館サービスを積極的に届ける。
- ・福祉施設等への「デリバリーライブラリー」、巡回型の「モバイルライブラリー」により、貸出・返却・相談機会を拡大。

#### <子ども読書活動の推進>

- ・館内でおはなし会、読み聞かせなどの行事を実施する。
- ・学校や保健センター等と連携し、出張読み聞かせなどを実施する。
- ・「おはなしの部屋」を整備し、読書活動やおはなし会の質の向上を図る。
- ・ハイストイベントや「みなと読書パスポート／ライブラリーパス」等独自事業の展開。

#### <地域との連携>

- ・港区の地域特性（海と港、藤前干潟、多文化共生、都市農業等）を踏まえ、港区の魅力発信を牽引する「地域の情報拠点」を目指す。
- ・港区役所（地域力推進課）をはじめ、警察・消防・学校・保健センター等と連携し、防災・防犯・子育て・健康福祉、多文化共生などの行政施策に資する資料提供や講座・展示を展開。
- ・地域会議への継続参加等で情報を収集し、サイネージ・館内広報・SNSで発信。あわせて「みなと地域情報デジタルハブ」の構築や企画展・協働事業により、地域の情報力向上に貢献する。

### ②自主事業

#### <収入確保策>

- ・自動販売機（港・南陽図書館各1台）の設置
- ・地域資源と協働・連携した物販品の販売

### (3) 収支計画について

#### ①管理運営にかかる費用等

##### <年度ごとの指定管理料の提案額>

8年度	113,455 千円
9年度	113,293 千円
10年度	113,356 千円
11年度	113,434 千円
12年度	113,580 千円

##### <年度ごとの収支計画>

###### 【収入内訳】

(単位：千円)

	指定管理料	自主事業等	合計
8年度	113,455	722	114,177
9年度	113,293	822	114,115
10年度	113,356	822	114,178
11年度	113,434	822	114,256
12年度	113,580	822	114,402

###### 【支出内訳】

(単位：千円)

	指定管理業務	自主事業	合計
8年度	113,953	224	114,177
9年度	113,854	261	114,115
10年度	113,917	261	114,178
11年度	113,995	261	114,256
12年度	114,141	261	114,402

※額には消費税及び地方消費税を含む。